

理事長・学長記者会見

- 1 黒田 理事長 就任挨拶
- 2 堤 学長 挨拶
- 3 第4期中期計画の策定について
- 4 質疑応答

日時：令和6年（2024年）4月8日（月）午前10時00分～
場所：熊本県立大学 CPDホール

第4期中期計画の策定について

- 中期計画とは、県が示す中期目標に基づき本学が目標達成に向けて作成する計画
- 県知事（法人の設立団体の長）の認可を受ける必要がある（地方独立行政法人法第26条）
- 第4期中期計画の計画期間：R6年度～R11年度（6年間）
- 教育、研究、地域貢献、国際交流、学生支援、業務運営といった法人・大学運営全般にわたる、45項目の計画で構成
- 重点的に取り組む事項
 - （1）社会と時代の要請に合わせた教育の質の向上
 - （2）地域との幅広い協働を確立する教育研究の着実な推進
 - （3）地域の国際化 に対応し、国際社会にも寄与する教育研究の推進

公立大学法人熊本県立大学 第4期中期計画（R6-R11）の重点事項

本学は、「総合性への志向」、「地域性の重視」、「国際性の推進」を理念とし、「地域に生き、世界に伸びる」をモットーに掲げている。第4期中期計画においては、第3期に引き続き、社会と時代の要請に合わせ教育の質の向上を図るとともに、地域との幅広い協働の確立や地域の国際化に対応し、国際社会にも寄与する教育研究をさらに発展させる。

※[]は計画番号

（１）社会と時代の要請に合わせた教育の質の向上

社会や時代の要請に合わせ、教育内容・教育方法及び教育研究組織等の検証を行い、効果的な改善・見直しにつなげるほか、内部質保証の観点からの自己点検・評価及び改善等についても積極的に取り組む。

具体的計画

【教育】

- ・入学者受入方針（AP）に基づく多様な入学者選抜の周知・実施 [1]
- ・大学院の受入れ推進のための取組及び収容定員の適正な管理 [3]
- ・DX・半導体関連産業などの分野でも活躍する人材の育成に向けたデータサイエンス教育の着実な推進 [5]
- ・教育DXの推進（データに基づく教育の質の向上に向けた取組） [7]
- ・学修成果の可視化と評価、学位授与方針（DP）及び教育課程編成・実施の方針（CP）の検証・改善 [4]
- ・総合性と専門性のバランスを考え、社会と時代の要請に合わせたカリキュラムや実施体制の検討（新しい時代を見据えた教養科目の内容の改善・充実、文学部、特に英語英米文学科のあり方、総合管理学部の専攻制導入（地域活性化人材育成事業～SPARC～含む）） [13]

【自己点検・評価】

- ・内部質保証の観点からの点検・評価及び改善、方針・体制の検証 [39]

（２）地域との幅広い協働を確立する教育研究の着実な推進

第3期に引き続き、令和2年7月豪雨からの復興・再生等の支援を含め、地域貢献を視野として地域に学ぶことを重視し、地域課題の解決に資する研究活動を行い、また、社会人・職業人に対する教育を推進する。

具体的計画

【教育】

- ・地域リーダーを養成する本学独自の教育プログラム「もやいすと育成プログラム」や、「地域連携型学生研究」等による地域の諸問題（大規模自然災害からの復興支援、起業・事業承継課題等）を題材とした実践的な教育の推進 [8]

【研究】

- ・JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の地域共創分野（本格型）における「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点による研究の推進 [14]
- ・地域に生きる大学として独自性のある研究及び地域の課題解決に貢献する研究の推進 [14]
- ・知財管理の体制整備等の研究支援 [16]
- ・【地域貢献】
- ・産学官連携 [18]
- ・ニーズに応じた各種公開講座及び専門的職業能力開発支援プログラムの推進（リカレント教育） [20]

（３）地域の国際化に対応し、国際社会にも寄与する教育研究の推進

英語能力の向上を目指したTOEIC®IPテスト全員受験など、グローバルビジネスに対応できる英語能力の育成を目指すとともに、グローバルな視点を持ち、地域課題に柔軟に対応できる能力を養う「もやいすとグローバル育成プログラム」を着実に実施する。また、学生の海外留学や留学生の受入れを促進し、相互交流や異文化理解を図り、地域の国際化に対応し、国際社会にも寄与する教育研究を推進する。

具体的計画

【教育】

- ・グローバルビジネスに対応できる英語能力の育成（英語能力の向上を目指したTOEIC®IPテスト全員受験、必要に応じた英語教育の改善） [9・10]
- ・グローバルな視点を持ち、地域課題に柔軟に対応できる能力を養う「もやいすとグローバル育成プログラム」の着実な実施 [11]
- ・外国人留学生等の受入れ増加 [2]

【国際交流】

- ・海外協定校との派遣・受入れの相互交流をはじめとした学生の海外留学・研修の実施（学生の留学支援のための経済支援及び危機管理対策の実施含む） [21]
- ・外国人留学生等に対するきめ細かな支援 [22]
- ・海外大学等との間の研究者交流・共同研究等の推進 [23]

第4期中期計画（R6-R11）重点事項

（1）社会と時代の要請に合わせた教育の質の向上

主な取組

◆ 全学必修のデータサイエンス科目の着実な実施

「データサイエンス入門」（1年次後期）・「データサイエンス演習」（2年次前期）

◆ 令和6年度総合管理学部に専攻制を導入、情報専攻を設置

◆ 文部科学省「地域活性化人材育成事業～SPARC～」

くまもとの未来を拓くグローバルDX人材育成プロジェクト
ー地域社会と国公私3大学の連携による“くまもと型分離融合DX教育”の構築を目指してー

事業参加大学として事業責任大学の熊本大学、事業協力

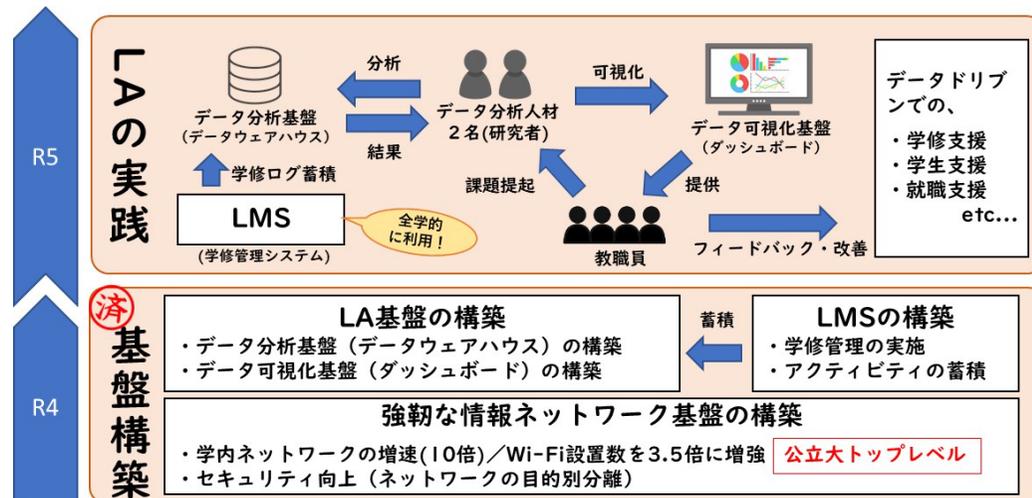
大学の東海大学と連携し、DX人材、グローバル人材の育成を強化



情報実習室での授業風景

◆ 教育DXの推進による大学教育の質の向上

- ・ネットワーク基盤、学修管理システムの構築等により公立大学トップレベルへ
- ・学修状況等のデータをダッシュボードで見える化
- ・高度な分析により修学及び就学支援に活用
- ・研究成果や各種データの収集・蓄積等



第4期中期計画（R6-R11）重点事項

（2）地域との幅広い協働を確立する教育研究の着実な推進①

主な取組

◆もやいすと育成プログラム

熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて、自ら課題を認識・発見し、“地域づくりのキーパーソン”として、**地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材(もやいすと)を育成**

◆地域連携型学生研究

自治体や企業等と連携し、**学生が主体となって観光活性化や情報発信などの地域課題について調査研究**

◆地域おこしスタートアップ事業

県や包括協定市町村と連携し、**地域の課題解決や地域活性化等につなげる契機となる取組**を実施



青井阿蘇神社周辺散策



令和2年7月豪雨の被災現場視察(川村駅)と、くま川鉄道永江友二社長の講話



コミュニティづくり「県大マルシェ」

いよいよ玉名コース
実行日程 | 約15.8km

- 観光ほっとステイたまつら [START]
- 1.2km
- 立寄寺公園 しらさきの足湯
- 1.5km
- 湯原院温泉 湯之館
- 1.45km
- 一心会館たんぽぽ堂
- 1.45km
- 温泉大通り
- 1.3km
- 観光ほっとステイたまつら [GOAL]

玉名市のE-bikeレンタル情報

E-bikeについて

玉名市観光協会がE-bikeのレンタルサービスを提供しています。玉名市観光協会がE-bikeのレンタルサービスを提供しています。玉名市観光協会がE-bikeのレンタルサービスを提供しています。

予約方法

1. 玉名市観光協会ホームページから予約する
2. 玉名市観光協会に電話して予約する
3. 玉名市観光協会に直接予約する

貸出場所

観光ほっとステイたまつら

玉名市観光協会 | 玉名市観光協会 | 玉名市観光協会

玉名で湯めぐり
「玉名美人になろう」

熊本県立大学 洋館研究室 たまもろり人

一般社団法人玉名観光協会様と
学生が作成したパンフレット

（2）地域との幅広い協働を確立する教育研究の着実な推進②

主な取組

- ◆ 緑の流域治水研究室を設置
JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の地域共創分野（本格型）に採択
- ◆ 南稜高校内に、同校の生徒と共に雨庭を整備
- ◆ 雨庭整備の推進（雨庭パートナーシップの立ち上げ）
- ◆ 県立大学内に実験水路を整備、実証研究を開始
- ◆ 行政職員や市民向け啓発活動の展開（勉強会／連続展示企画）

地域共創流域治水

流域からの
流出抑制

- 山地 ● 畑 ● 水田 ● 公園 ● 農地
- グランド ● 学校 ● 住宅 ● 道路

操作

- 集めない ● 早く流さない
- 氾濫しても甚大な被害を出さない

データ:IoT
面的な水位データ/面的な土壌水分量
地下構造、洪水波の時間変化、4次元計画

流域全てを対象とした治水

- 流出抑制
- 氾濫流のコントロール
- 土地利用マネジメント

持続的な地域づくり

- 美しい風景・豊かな自然
- 豊かな経済
- 参加型の取り組み

など

リスク+持続的で豊かな地域（SDGs）のマネジメント



県立南稜高校に整備した雨庭



県立大学内に整備した国内最大級の実験水路



中学生を対象とした勉強会（R5.8）

（3）地域の国際化に対応し、国際社会にも寄与する教育研究の推進

主な取組

- ◆ 英語能力の向上を目指した**TOEIC®IPテストの全学部2年生全員受験**
- ◆ 英語学習用e-learningシステム（英語のリスニング力や語彙力強化）
- ◆ もやいすとグローバル育成プログラム
グローバルな視点を持ち、地域課題に柔軟に対応できる学生を育成
 - ・R5年度は、3年生5名がカンボジアの政府機関や民間企業、NGOで約1ヶ月間、実習実践活動（インターン）に参加
- ◆ 海外留学・研修の単位化（Global Languages, Global Studies）
- ◆ Intensive English
英語運用能力を高めることを目的に、留学生と共に英語漬け環境で短期集中的に英語を学ぶ
- ◆ 国際交流
海外協定校との交流（交換留学生・短期研修団の派遣・受入れ）
- ◆ 水銀研究留学生の受入れ
水銀研究分野の国際的研究者を育成（7か国12名博士号取得）
- ◆ JICAと連携した高度グローバル人材育成（大学院教育）



カンボジアでのインターンシップ



カセサート大学からの受入れ



水銀研究留学生の受入れ